

# 花の説明

## 春



**1 サクラ** 開花期3~4月  
春に白色や淡紅色から濃紅色の花を咲かせ、日本人に古くから親しまれています。果実を食用とするほか、花や葉の塩漬けも食用などに利用されます。園芸品種が多く、特に江戸末期に開発されたソメイシノ(染井吉野)は、明治以降全国各地に広まり、サクラの中で最も一般的な品種となっています。



**2 ハクモクレン(モクレン科)** 落葉高木 中国原産 開花期3~4月  
3月の終わりごろ、葉の出る前に枝先いっぱい蕾をつけ、日が当たると一斉に白い花を開き、あたり一面に強い香りをただよわせます。この花弁は寒さに大変弱く霜に遭うと赤茶けてしまいます。



**3 ボタン(キンポウゲ科)** 常緑低木 中国原産 開花期4~5月  
薬の木として中国から渡りました。20cmにもなる大きな香りの良い花をつけ、「花の王様」といわれます。栽培は、草本のシャクヤクの株にボタンの芽を接木します。公園の牡丹園では、接木したボタンが枯れ、シャクヤクとなった株が見られます。



**4 シラン** 開花期1~5月  
ラン科植物には珍しく、日向の畑土でも栽培可能なので、観賞用として庭に植えられます。極めて丈夫な植物で、半日陰から日向まで適応し、乾燥にも加湿にもよく耐え、栽培しやすく偽球根は白及(びやくきゅう)と呼ばれ、漢方薬として止血や痛み止め、慢性胃炎に用いられます。

## 夏



**5 ダイサンボク(モクレン科)** 常緑高木 北米原産 開花期5~6月  
5~6月ごろ、濃緑色の光沢が美しい大きな葉とよく釣り合う強い香りの見事な花が開きます。この属では珍しく常緑で美しい樹形の大本になります。



**6 ハナショウブ** 開花期6月  
花の色は、白、ピンク、紫、青、黄色など多数あり、絞りや覆輪などの組み合わせを含めると、5,000種類あるといわれています。なお、菖蒲湯に使われるのは、ショウブ(菖蒲)です。



**7 ネムノキ(マメ科)** 落葉高木 開花期6~7月  
春、新芽がなかなか開かず心配させられたり、夜に葉が閉じて眠ってしまう性質からネムノキと呼ばれています。夏の間、紅色の花をつけます。葉は二回羽状複葉です。



**8 キョウチクトウ** 開花期7~8月  
キョウチクトウ(夾竹桃)は葉がタケに似ていること、花がモモに似ていることから付いた名前ではピンク、黄色、白など多数の園芸品種があり、八重咲き種もあります。また、有毒な防御物質を持つため食害する昆虫も少なく、乾燥や大気汚染に強いため街路樹などに利用されています。

## 秋



**9 サルスベリ** 開花期8~9月  
紅の濃淡または白色の花が美しく、耐病性もあります。サルスベリの名は幹の肥大成長に伴って古い樹皮のコルク層が剥がれ落ち、新しいすべすべした感触の樹皮が表面に現れて、猿が登ろうとしても、滑ってしまうということでこの名が付けました。



**10 ハギ** 開花期8~10月  
秋の七草の一つであるハギは紅紫色と白の花をつけます。開花期間は夏から晩秋までと長く、シロバナハギは全国的に見られます。



**11 キボウシ** 開花期9月  
ユリ科の多年草で、山地の湿地などに自生し、花が美しく日陰でもよく育つため栽培されています。キボウシの名はつばみ、または包葉に包まれた若い花序が擬宝珠に似ていることからつけられた名で、花言葉は「落ち着き」「沈静」「静かな人」です。



**12 モクセイ** 熟果期10月  
単にモクセイという場合は、銀モクセイを指します。キンモクセイは銀モクセイの変種で主に庭木として観賞用に植えられ、秋になると小さいオレンジ色の花を咲かせ、甘めでしっかりした強い香りを漂わせることから、トイレの芳香剤として利用されていました。

## 冬



**13 サザンカ(ツバキ科)** 常緑高木 開花期11~12月  
ツバキ科の一種ですが、秋咲きであり、花弁が1枚ずつ分かれて散るのでツバキとは完全に別扱いをしています。また、小枝や葉裏の主脈に褐色の毛があるので、花のない時期でもツバキと区別できます。



**14 ツバキ** 開花期1~2月  
通称ヤブツバキは、照葉樹林の代表的な樹木で、花期は冬から春にかけて跨り、早咲きのものは冬最中に咲きます。「花椿」は春の季語ですが、「寒椿」は冬の季語です。種子からは椿油が採れます。



**15 ウメ** 開花期2~3月  
バラ科の落葉高木で中国中部の原産で、日本に渡来し野生化したものとされています。300種以上の品種があり、花梅は野梅(やばい)系、紅梅(こうばい)系、豊後(ぶんご)系の3系に大別されています。



**16 スイセン** 開花期2~3月  
ヒガンバナ科スイセンは園芸品種が1万品種以上もあり、年々その品種が増えています。日本では自生の日本スイセンがお正月を飾る花でした。また、海外で長年改良されたスイセン園芸品種が早春から春の花壇を彩っています。